

令和6年度 学校評価表

香芝市立志都美小学校

教育目標	心身共にたくましく、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成			総合評価
運営方針	合言葉である「(志)しっかり (都)ずっと (美)みんな」を具現化に努め、元気な挨拶と明るい笑顔のあふれた学校づくりを目指す。			B
本年度の重点目標	教職員相互の信頼と協力に基づいて絶えず研修を積み重ね、活気に満ちた学級・学校づくりに努める。			
	学校・家庭・地域との連携協力を密にしながら、保護者・地域住民の信頼に応える教育活動を展開する。			
	児童の実態をふまえ、基礎的・基本的な内容の確実な定着と確かな学力の育成を図る。			
	道徳的心情と正しい判断力を育み、よりよき規範意識を樹立、情操の陶冶、自主的行動の啓培に努める。			
	「人権」「生命の尊厳」を柱に、差別に対する正しい見方、考え方を培い、差別に立ち向かう意欲と実践力を養う教育を推進する。			
	児童の自主性を伸ばすとともに、実践力を高めるための体験活動を重視した教育活動を推進する。			
	特別支援教育の在り方を正しく認識し、一人一人の児童の実態を把握し、児童の可能性を最大限に伸ばす取組を個別指導計画の中に正しく位置づけ、指導体制を確立する。			
自他の生命の安全に留意し、健康でたくましい心身を育てる保健・安全・体育的指導に努める。				
学校経営	評価の観点		評価	次年度への課題と改善策等
教育目標・指導の重点	(1) 学校教育目標や指導の重点に基づいて、前年度の課題を踏まえ、自身の教育活動を展開している。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題と重点目標を確認し、取組を進めてきた。 ・職員会議や研修及び終礼等で共通理解を図っている。 ・校長室だよりを発信することで、保護者・地域住民に知らせていたが、地域からも良い評価を得ている。
	(2) 学校教育目標が教職員に共有され、教育活動を進める上で生かされている。	A		
	(3) 学校教育目標が、保護者や地域住民等に発信され、理解されている。	A		
地域連携	(4) 学校と地域社会との連携がよくできており、地域の人材・施設・環境等を十分活用した学習ができている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に学習面・生活面での支援をたくさんしていただいた。
危機管理	(5) 公文書や個人情報の管理・保護を適切に行っている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書や個人情報の保管場所を設け、担当者が保管及び管理を適切に行っている。 ・年度当初に全職員で確認し、対応できるように、普段から緊急時マニュアルを活用しやすいところに置き、意識できている。
	(6) 危機管理に対し、教職員全員が共通理解している。	A		
学習指導	(7) 各教科の指導内容について、基礎・基本を明確にし、教科の精選・工夫を計画的に行っている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・指導の計画を工夫して進めていて、学力向上につながられている。 ・校内研修では、プログラミング学習に取り組んだが、個々の研修が多くなり全体で取組を共有することができなかった。 ・地域の方の協力のもと、体験的な学習活動を多く取り入れることができた。コミュニティとさらに連携し、今後も活動を進めていく。 ・教科の学習に限らず、特別活動における児童会活動でもクロームブックを効果的に活用している。
	(8) 教材研究を通して指導法や学習形態の工夫をし、児童が集中して取り組む授業を行っている。	B		
	(9) 体験活動を多く取り入れるなど、児童がより主体的に学ぶ授業づくりに取り組んでいる。	A		
	(10) パソコンやタブレット、視聴覚機器などを利用して、効果的に学習を進めている。	A		
学習意欲	(11) 全職員で児童の学習の実態を分析し、児童の学習課題を明確にして取り組んでいる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や奈良県の学力テストの結果分析を綿密に行い、課題や来年度の対策を職員全体で共通理解し、来年度取り組んでいく。 ・職員で家庭学習の内容や時間を共通理解し、「家庭学習の手引き」に則した宿題の出し方を考えていく。
	(12) 各教科等において学習意欲向上のための具体的な取組を行っている。	A		
	(13) 家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組ができている。	B		

生徒指導	(14) 児童の実態について共通理解し、教職員が連携して、組織的・継続的に指導する体制が整っている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・終礼等で児童の実態を共有しているので、継続していきたい。保護者対応がある場合は生徒指導や管理職に連絡をいれる学校全体で対応していく。 ・毎週のめあて（しずみっ子7カ条）をボランティア委員会が放送で周知している。守れている項目もあるが、廊下歩行の項目が守れていない。 ・避難訓練は、その時々で適切に訓練をできていた。いざという時に備え、事前事後指導を含めこれからも続けていく。 ・たて割り掃除では、高学年が低学年の手本となり協力して熱心に掃除をする習慣がついている。
	(15) 生活指導を通して児童が、しずみっ子7カ条を守って、学校のルールを守っている。	B		
	(16) いじめに関して実態を把握し、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。	B		
	(17) 避難訓練や安全意識高揚のための取組を進めている。	A		
	(18) 児童が掃除の仕方を身につけ、進んで掃除をしている。	A		
道徳	(19) 道徳科の年間指導計画に基づいて実践を進め、年間の授業時数が確保できている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日に道徳の時間を設定して取り組んでいる。
特別活動	(20) 特別活動を通して、児童が自主的・主体的に活動する態度を育てる指導ができている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・縦割り活動（そうじ・カラフルタイム・ハッピーワールド）については、児童の自主性・主体性を育むためにたいへん役立っている。来年度も引き続き行っていく。
	(21) 委員会活動やクラブ活動では、適切な時間を確保し、児童の自主的な活動が行われている。	A		
人権教育	(22) 児童や地域の実態を踏まえて、人権教育推進計画を作成して、活用している。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の研究主題の授業研と人権の校内研との回数などのかね合いが難しく、計画的に指導を行えなかった。来年度は、学期ごとに重点教材を設定して1取り組んでいく。
	(23) 年間指導計画に基づき、重点教材を使った指導が行われている。	A		
	(24) 暮らしの中にあるさまざまな差別について、正しい見方・考え方を育てることができている。	B		
特別支援教育	(25) 職員が特別支援教育について十分に理解している。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1対応が必要な児童には支援員をお願いすることが多くなり、支援が必要な児童へのサポートが十分に行き届かなかった。
	(26) 支援員、学生ボランティア等を生かし、児童のニーズに応じて支援を行っている。	B		
保健・食育指導	(27) 児童の健康課題の解決に向けた保健指導が、計画的に行われている。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・長期の休み明けに児童の生活習慣の見直しを行い自分の生活と健康について考える機会を設定している。 ・学年に応じた保健指導やデジタル機器と健康についての指導を来年度も継続して行う。 ・食育指導は旭ヶ丘小学校の栄養教諭に来校してもらい実施している。来年も引き続き行う。 ・アレルギーの研修は2年に1回行っている。来年度実施する。
	(28) 年間指導計画に基づいて性教育が行われている。	B		
	(29) 年間指導計画に基づいて食育指導が行われている。	B		
	(30) 食物アレルギー等を有する児童に対して、指導体制や救急体制が整っている。	A		
読書活動	(31) 朝読の活動が十分に行われている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員も一緒に読書をする。また、毎年行っている教師による読み聞かせの回数を増やす。
体力向上	(32) 運動の楽しさが味わえる学習が計画的に行われている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体カテスト、運動会、かけ足等、児童の実態に合わせてながら、工夫して実施することができた。 ・健康委員会の企画（なわとび週間など）で、児童への体を動かすことの意識づけができた。
	(33) 体力づくりにつながる活動が進められている。	A		
研修・研究	(34) 研究教科の研究目標や研修計画を全教職員が共通理解している。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は個々の研修にとどまり、全体で研修したり議論したりする機会を持てなかった。来年度は、「読む・書く」を重点に置き、教科は限定せずに研究を進めていく。 ・今年度の研究テーマであったプログラミングについては、来年度も各学年で取り組んでいく。
	(35) 研修の成果を積み重ね、課題を明らかにし、日頃の教育実践に生かしている。	B		
	(36) 学年でまとまって教科研修を行い、成果を上げている。	B		

評価はA・B・C・Dの4段階